

(1) オートパイロットシステムに関する検討会の設立経緯

別紙

平成23年5月	次世代ITSに関する勉強会を設置 (国土交通大臣政務官主宰)
平成23年5月以降	合計5回の勉強会を開催
平成24年3月26日	勉強会のとりまとめ(公表)

【勉強会の目的、経緯等】

- ・ 高速道路の自動運転の実現に向けた取り組みに必要な検討を行うことを目的
- ・ ITSや車両の先進安全技術に関する有識者等に対し、計5回のヒアリングを実施
- ・ 自動運転の実現に向けた技術的動向や課題等に関して議論

【自動運転の実用化に向けた主な課題】

- ・ 自動運転を実現するオートパイロットシステムには、様々なパターンが存在
(コンセプト整理が必要)
- ・ 実現には、事業面、制度面、安全面、社会需要面等の課題解決が必要

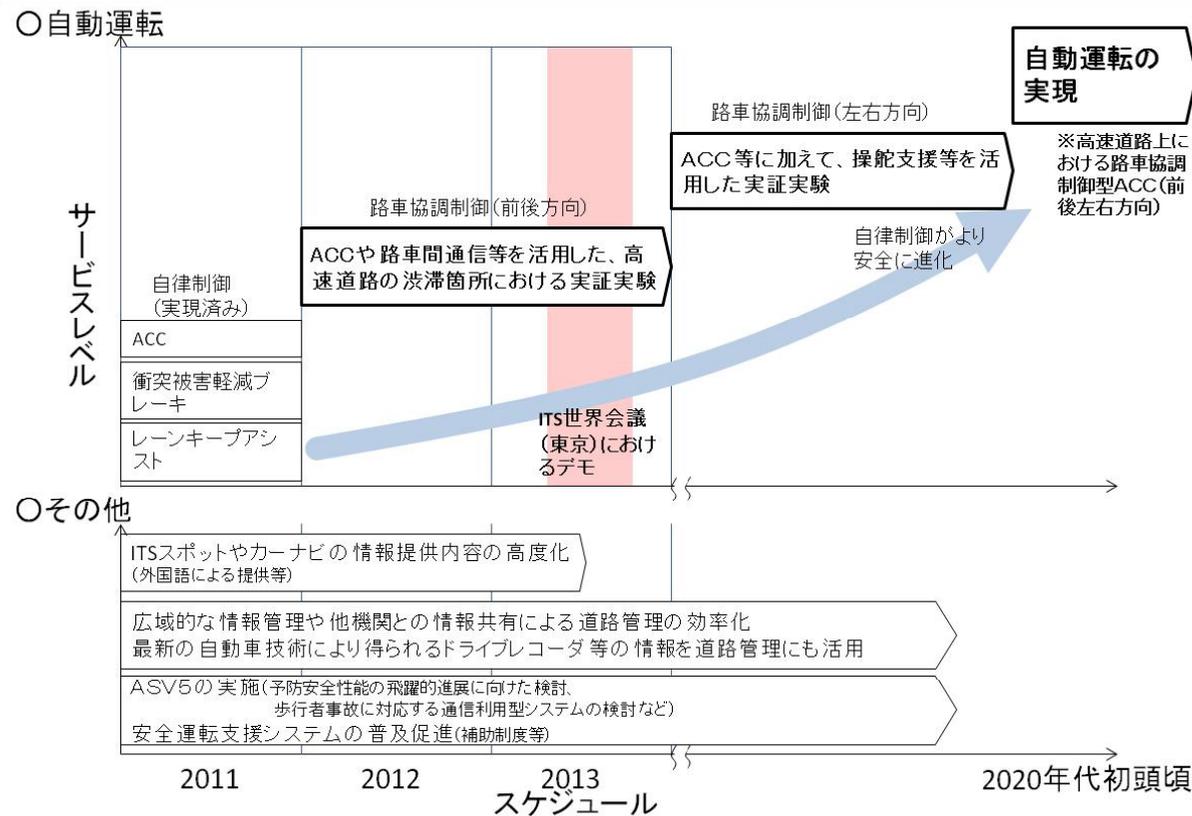


- ・ オートパイロットシステムの実現に向けて、有識者を加えた検討会を設置

<参考>次世代ITSに関する勉強会とりまとめ(抜粋)

- ・ 2013年までに路車・車車協調技術の技術開発を行い、前後の制御（ACC）を高度化した「路車・車車協調型の運転支援」に関する検討・実験を行う。
- ・ ITS世界会議（東京）においてデモンストレーションを実施し、高速道路等の渋滞解消を目指すとともにオートパイロットシステムの実現時期の公表を目指す。
- ・ 2020年代初頭頃のオートパイロットシステムの実現を目指す。

官民の研究開発による次世代ITSの目指すべき方向性(案)



ACC(Adaptive Cruise Control)先行車との車間時間や速度等を維持する車両制御技術

(2)オートパイロットシステムに関する検討会(案)

- 国土交通大臣政務官主宰の下、「オートパイロットシステムに関する検討会（座長：朝倉 康夫 東京工業大学大学院理工学研究科教授）を設置する。
- 平成24年6月27日に第一回の検討会を開催予定である。

1. 趣旨

道路分野や自動車分野で研究開発・実用化が進んできたITSは、交通事故の削減や渋滞の解消・緩和に貢献してきたところであるが、これらの問題の抜本的な解決を図るために、インフラと自動車の協調システムの実現など従来のITS技術をさらに高度化、融合させた次世代ITSの導入が期待されている。

このような中で、国土交通省では、国土交通大臣政務官主宰の次世代ITSに関する勉強会を開催し、新しい概念である高速道路の自動運転の実現に向けた取り組みに必要な検討を行ってきたところである。

本検討会は、高速道路上の自動運転を実現するシステム（オートパイロットシステム）について、その実現に向けた課題の整理・検討等を行うことを目的とする。

2. 主な検討内容

- ・オートパイロットシステムのコンセプトの検討・整理
- ・オートパイロットシステムの実現に必要な検討事項の整理
- ・ロードマップの作成

3. 検討スケジュール

- ・平成25年3月頃 中間とりまとめ

(3)有識者委員の構成、行政側の出席者(案)

有識者委員の構成

- (座長) 朝倉 康夫 東京工業大学大学院理工学研究科 教授
古川 修 芝浦工業大学システム工学部 教授
大口 敬 東京大学生産技術研究所 教授
渡邊 浩之 特定非営利活動法人 ITS Japan 会長
金光 寛幸 トヨタ自動車株式会社 制御システム先行開発部 第3制御システム先行開発室長
福島 正夫 日産自動車株式会社 企画先行技術開発本部 環境・安全技術渉外部 担当部長
横山 利夫 株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター 第12技術開発室 上席研究員
山本 康典 マツダ株式会社 技術研究所 先進車両システム研究部門 人間機械システム研究長
柴田 英司 富士重工業株式会社 スバル技術本部 車両研究実験第3部次長
吉川 良一 中日本高速道路株式会社 取締役専務執行役員 保全・サービス事業本部長

行政側の出席者

- (主宰者) 津川国土交通大臣政務官、津島国土交通大臣政務官
(出席部局) 道路局、自動車局
(オブザーバー) 警察庁、経済産業省